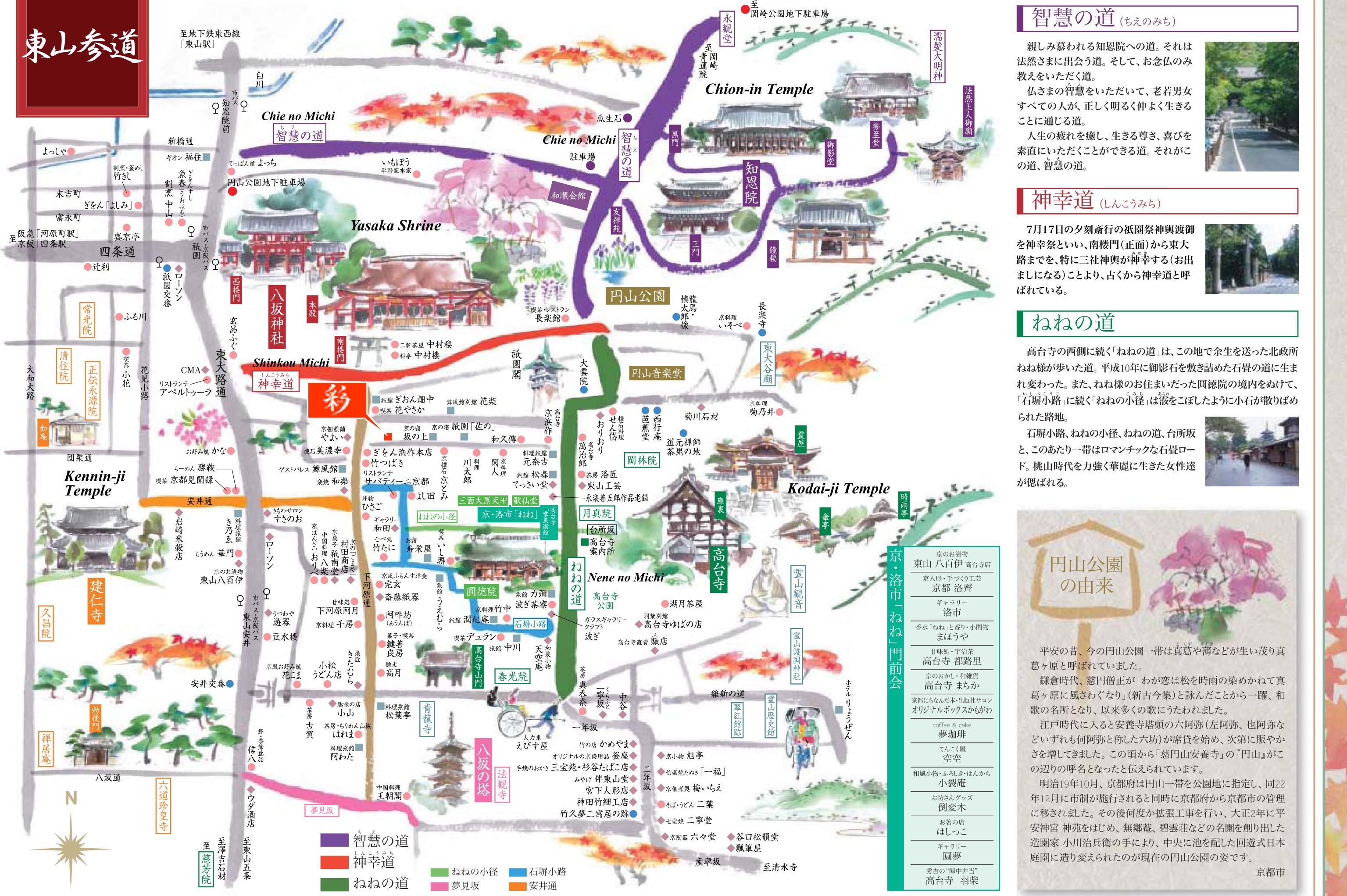


東山参道



智慧の道 (ちえのみち)

親しみ慕われる知恩院への道。それは法然さまに出会う道。そして、お念佛のみ教えをいただく道。

仏さまの智慧をいただいて、老若男女すべての人が、正しく明るく仲よく生きることに通じる道。

人生の疲れを癒し、生きる尊さ、喜びを素直にいただくことができる道。それがこの道、智慧の道。



神幸道 (しんこうみち)

7月17日の夕刻斎行の祇園祭神輿渡御を神幸祭といい、南楼門(正面)から東大路までを、特に三社神輿が神幸する(お出ましになること)より、古くから神幸道と呼ばれている。



ねねの道

高台寺の西側に続く「ねねの道」は、この地で余生を送った北政所ねね様が歩いた道。平成10年に御影石を敷き詰めた石畳の道に生まれ変わった。また、ねね様のお住まいだった圓徳院の境内をぬけて、「石塀小路」に続く「ねねの小径」は畠をこぼしたように小石が散りばめられた路地。

石塀小路、ねねの小径、ねねの道、台所坂と、このあたり一帯はロマンチックな石畳ロード。桃山時代を力強く華麗に生きた女性達が偲ばれる。



円山公園の由来

平安の昔、今の円山公園一帯は真葛や薄などが生い茂り真葛ヶ原と呼ばれていました。

鎌倉時代、慈円僧正が「わが恋は松を時雨の染めかねて真葛ヶ原に風さわぐなり」(新古今集)と詠んだことから一躍、和歌の名所となり、以来多くの歌にうたわれました。

江戸時代に入ると安養寺塔頭の六阿弥(左阿弥、也阿弥などいすれも何阿弥と称した六坊)が席販を始め、次第に賑やかさを増してきました。この頃から「慈円山安養寺」の『円山』がこの辺りの呼名となつたと伝えられています。

明治19年10月、京都府は円山一帯を公園地に指定し、同22年12月に市制が施行されると同時に京都府から京都市の管理に移されました。その後何度も拡張工事を行い、大正2年に平安神宮神苑をはじめ、無鄰菴、碧雲莊などの名園を創り出した造園家小川治兵衛の手により、中央に池を配した回遊式日本庭園に造り変えられたのが現在の円山公園の姿です。

京都市